

## 平成29年度学校関係者評価

### 1 自己評価及び本校教育活動に対する学校関係者評価委員からの意見

- ・ 専門高校としての様々な取り組みは成果を上げている。
- ・ 基礎学力きちんと身につけた上での専門性で、進路実現にもつながると思う。
- ・ 学校評価アンケートでは学習指導の充実や授業改善についてやや不十分・不十分が前年に比べ増加した。工夫改善が必要である。
- ・ 資格取得について「自主的にチャレンジする生徒が少ない。」という説明があった。資格取得の意義について生徒に考えさせることも大切である。
- ・ 卒業後の就職先について、地元で働くといった後押しをしてもらいたい。地域をいかに活性化するかというのは大きな課題である。
- ・ 大学入試の英語の試験が TOEIC などの資格が代用される。英語力をつけさせる取り組みが必要である。
- ・ 部活動の加入率は高いが実績が上がらないということが気になる。やる気を出させる工夫をお願いしたい。
- ・ 一部、教職員間の連携不足や共通理解不足が反省から読み取れる。教職員が同じ方向を見て努力しないという方向には行かないので、改善を。

### 2 学校関係者評価に基づく今後の改善方策等

- ・ 農業・工業・商業・家庭の全ての専門学科を持つという本校の強みを活かした教育活動を展開して行く必要がある。それと併せて、基礎学力の定着、家庭学習習慣の定着を図り、あらゆる進路に対応できる学力を身につけさせる必要がある。大学入試そのものも大きく変わることから、普通教科においては、教科ごとに常に授業の改善工夫を行い、授業力向上に向けて「わかる授業」だけでなく「力をつけさせる授業」を実践していく必要がある。
- ・ 「家庭学習の習慣化」、「資格取得に自主的にチャレンジする」といった日常的な心構えや姿勢の定着において大切なことは、「生徒自ら考え行動する」という意識付け、つまり、「主体的教育活動」の実現に向け取り組んで行く必要がある。具体的には、生徒の自己理解を促し、自身の興味関心を踏まえ、将来の夢を語り、そのためには何が必要かを理解させることが肝要である。
- ・ 教職員が、やりがいを持って意欲的に、そして共通理解を持って教育活動に取り組むことで、より効果的で高度な教育活動が展開されることは言うまでもない。そのためには、各学科が一つにまとまり、学科の目標を達成するために一致協力することが不可欠である。それと併せて、学科間の意思の疎通を十分に図り、学科連携のもと専門教育を充実させていくことが大切である。活発で建設的な意見の交換ができる風通しの良い職場環境作りのために心掛けて行きたい。